



### No 2758

2015-2016年度

会長 中元耕一郎

幹事 上野山栄作

R広報委員長 児島 良宗



担当：松村R広報委員

第2640地区  
 例会日 毎週木曜日 12:30  
 例会場 紀州有田商工会議所6F  
 〒649-0304  
 有田市箕島33-1  
 紀州有田商工会議所2F  
 有田ロータリークラブ  
 Tel (0737) 82-3128  
 Fax (0737) 82-1020  
 創立 昭和34年6月15日  
 ホームページ  
<http://www.1a.biglobe.ne.jp/aridarc/>  
 e-mail aridarc@kdt.biglobe.ne.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

テーマ



### 世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

世界へのプレゼントになろう

テーマ



### 奉仕の理想車を走らせよう!!

Let's drive your ideal car of the service!!

### 本日のプログラム

平成27年11月12日 第2759回

- ・ 会員卓話：児島 良宗 君  
「おもてなしの心」
- ・ ソング：「我らの生業」

### 次回のお知らせ

平成27年11月19日 第2760回

- ・ 3クラブ合同ガバナー公式訪問 合同例会  
ガバナーアドレス：辻秀和ガバナー
- ・ ソング：「君が代」「奉仕の理想」

### 前回の報告（第2758例会）

開催日 平成27年11月5日(木)

点 鐘 (中元会長)

### 新会員入会式

<江川正文君の紹介>(上野山(栄)君)

新しく入会されました江川正文さんをご紹介いたします。

千田に大きな倉庫と事務所を構える株式会社ユニワールドの代表取締役です。東京経済大学をご卒業されています。その後、地元の信用金庫にお勤めの後、奥様のご実家の富士手袋に入られました。独立をされ一代で現在の規模になさっています。現在は作業用品の総合商社として作業手袋は数十種類にのぼり、特にドイツのスニーカーメーカーのプーマ社の安全靴関連は日本の卸元となっています。出張で世界を飛び回っている彼が有田ロータリーに興味を持ってくれた一番の理由は地域の方との絆作りだと伺っています。今まで必死に商売をしてきて、気がつけば地元を知り合いが少なかった。これからは多くの地元の方と地域貢献にも力を入れていきたいと考えています。彼の国際感覚は、私たちの奉仕を進める上で、きっと私たち自身にも勉強になると思います。

私との出会いは、私の商売の保田会館を江川さんの会社の隣に建築させていただくにあたり、快くご協力を頂いたのがきっかけでお知り合いにならせていただきました。

また、お子様方も長女様は英会話の先生、長男様は現在修行中で、数年で会社に入られる予定ですので事業継承も万全です。

とてもお忙しい方ですが、できるだけ例会に出席して、まずは会員皆さんと親睦を図り、ロータリー理念を学んで欲しいと思います。ゆっくりと一緒にロータリーを楽しんでいきましょう。本日のご入会、おめでとうございます。



新会員

江川 正文 君

1961年10月15日 生まれ  
職業分類：手袋製造業

### <新会員歓迎の言葉>(中元会長)

江川正文君、ご入会、誠にありがとうございます。有田ロータリークラブは、創立57年目を迎え、日本でも有数の伝統と歴史のあるクラブです。今年度は既に、嬉しいことに3名の方にご入会して頂きました。他の3名の方同様、江川君も、人格的にも職業人的にも素晴らしいお方であると聞きしています。

ロータリーでは異業種の方々と接する機会が多く、より交流関係が広がったり、職業上でも、新しいアイデアが生まれたりする可能性が高まります。それ以外にも、ロータリーにはいろんな魅力が数多くあります。このことは、ロータリーを実際に体験して頂くことで、少しずつご理解して頂けるものと考えています。

有田ロータリークラブの会員一同は、江川君の入会を熱烈大歓迎しています。どうかロータリーライフを存分に楽しんで頂き、素晴らしい活動をなさってくれるものと期待しております。甚だ簡単ではございますが、新会員の歓迎の挨拶に代えさせていただきます。



会長の時間 (中元会長)

ロータリーにおいて、「歌を歌うということ」を始めた人は、1905年にロータリーが創立して、5番目に入会した、ハリー・ラグルス(Harry Raggles)という人物です。シカゴRCの会員となった、職業分類が印刷業のハリーは、ポール・ハリスによると、一見無愛想で、クラブ入会の紹介時には「果たしてクラブに入って、ロータリーの友好を実現できるだろうか」と内心危ぶまれたほどの人だったようです。

1905年のロータリークラブの、ある秋の日の夜の例会で、ハリー・ラグルスが何の前触れもなく、突然立ち上がり、「おい、みんな、歌おう！」と当時流行っていた歌を何曲か音頭をとって歌いました。これが、ロータリーの例会で歌を歌った最初の出来事でした。また、ロータリー誕生後2年目には、ささいな意見の違いがだんだん大きくなり、シカゴクラブ内が割れ、解散の危機に陥りました。そんな時、幹事のウィル R. ネッフ医師とハリー・ラグルスが相談し、毎回クラブの例会で歌を歌うこととなりました。その結果、いつのまにかクラブの雰囲気は良くなり、シカゴRCは解散の危機を脱したそうです。歌が会員の心を結び、親睦を育んだのでした。

一方、日本でも日本語によるロータリー・ソングを求める声が高まり、「奉仕の理想」や「我らの生業」が1935年(昭和10年)、京都における地区大会で、日本語ロータリー・ソング入選作として発表されました。「奉仕の理想」の歌詞を読みますと、

奉仕の理想に 集いし友よ  
御国に捧げん 我らの生業  
望むは世界の 久遠の平和  
永久に栄えよ 我らのロータリー ロータリー

であります。2行目の「御国に捧げん」の「御国」が国粋主義的との批判的な意見もあります。「御国に捧げん」という言葉になったのは、英語が敵国語とされ、アメリカ由来のロータリーに世間の冷たい目が向けられていた時代に、ロータリーの組織を守ろうとする苦肉の策でした。

この「奉仕の理想」が発表された昭和10年の5年後には日本のロータリークラブは国際ロータリーを脱退し、解散を余儀なくされました。そうした、ロータリーの苦難の時代を耐え抜いたこの歌の歴史を尊重しなければなりません。

また一方で、「御国に捧げん」という歌詞が、「世界に捧げん」とか「地域に捧げん」、あるいは「社会に捧げん」のほうが良いとの意見もあります。2行目の「御国」を「世界」に変えると、3行目の「世界」と重なりますし、「地域」にすれば限定される気もします。もし、「社会に捧げん」とすれば、対象が拡がりすぎ、輪郭が曖昧になるように思われます。私は、このことについては、それほど大切ではなく、地域でも社会でも、世界でも、あるいは、現状のままでも良いと考えます。何故なら、基本となるのは「Service above self」、「超我の奉仕」の考え方であって、自分よりも、まず地域や、社会、国、世界への貢献を優先することが重要だからです。みなさんも、「奉仕の理想」を歌う時に、もし心の中で置き換えるとすれば、「何に捧げん」が良いのか一度考えてみてはいかがでしょうか。時には、自分が理想とする奉仕とか世界平和を心に描きながら、ロータリー・ソングをともに歌っていきたいものです。

幹事報告 (上野山(栄)幹事)

- 地区より  
2015-2016年度国際ロータリー第2640地区ガバナーエレクト事務所開所のお知らせが届く
- 他クラブ週報 田辺RC 後方掲示
- 11月19日の3クラブ合同公式訪問と合同例会、懇親会の出欠を早めをお願いします。

出席報告 (脇村例会運営委員)

- 本日の会員数28名  
(出席規定免除会員9名)
- 出席会員数21名  
(出席規定免除会員6名)
- 87. 50%
- 10/22 83. 33%
- MU: 上野山(栄)君、脇村君

ニコニコ箱の報告 (中村SAA)

- 中元君: 江川正文さん、御入会おめでとうございます。嶋田先生、本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- 上野山(栄)君: 江川さん、本日入会おめでとうございます。一昨日、結婚20周年を迎える事ができました。妻に感謝です。嶋田先生、卓話で勉強させていただきます。
- 児島君: 嶋田さん、卓話楽しみです。
- 岩橋君: 嶋田さん、卓話楽しみにしています。
- 嶋田(崇)君: つたない卓話ですが、宜しくお願ひいたします。
- 上野山(捷)君: 嶋田崇さま、本日の卓話ご苦労様です。
- 脇村君: 嶋田さん、本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- 松村君: 江川正文様 入会おめでとうございます。嶋田崇様 卓話楽しみにしています。
- 應地君: 嶋田先生、卓話を楽しみにしています。江川さん、入会おめでとうございます。
- 橋爪(誠)君: 嶋田崇様 本日の卓話よろしくお願ひ致します。勉強させていただきます。江川正文様 はじめまして。よろしくお願ひ致します。
- 橋本君: 嶋田さん、卓話よろしくお願ひいたします。江川さん、ようこそ有田RCへ。今後とも宜しくお願ひいたします。
- 嶋田(ひ)君: 先日、嬉しい事がありました。
- 成川(守)君: 嶋田君、卓話楽しみです。
- 岩本君: 仕事が入りまして中座させていただきます。
- 酒井君: 嶋田さん、本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- 橋爪(正)君: 嶋田崇さん、IDMの発表に続いて卓話御苦労さまです。楽しみにしています。
- 宮井君: 江川さん、御入会おめでとうございます。嶋田崇君、本日の卓話楽しみにしています。
- 中村君: 嶋田先生、本日の卓話楽しみです。江川正文さん、ようこそ有田RCへ。ロータリーライフを満喫してください。

## 「私の国際奉仕」

会員 嶋田 崇君

皆様こんにちは！今日は「私の国際奉仕」というテーマでお話するのですが、本題に入る前に落語でいう“まくら”を先にやってみようと思います。落語の“まくら”とは落語家が入題に入る前に話す世間話とか小噺などのことを総称して“まくら”と言います。私はJCすなわち青年会議所の出身なのですが、今日は私という人間を知って頂くためにも、私のJC時代のお話を少し致します。その当時有田JCの組織は、大きく分ければ会員開発室と社会開発室という2つのグループに分かれていました。会員開発室というのは、ロータリーで言えばクラブ奉仕委員会と言っても良いかと思えます。例会をスムーズに開くためのグループで自己開発、自己修練などもこのグループの中で行われます。社会開発室というのは、ロータリーで言えば社会奉仕委員会、国際奉仕委員会、青少年奉仕委員会等がこれに相当するのではと思います。つまり地域活性化のために対外的に事業を打って出るグループです。実際活動してみますと、会員開発室より肉体的に動き回る社会開発室の方が事業をやっているという実感がありますし、楽しかったですね。ただ、事業を行う時には、なぜそれをするのかとか、何のためにするのかとかいろいろな理由が必要で、そういうところはJC時代にだいぶ鍛えられたつもりですが、未だに私の苦手としている部分です。すなわち私はあまり物事を深く考えずに実践行動に突っ走ってしまうタイプなのです。ですから、いろいろな理由理屈は後からこじ付けのように作ってしまいます。まあそれも一つのやり方かも知れませんが、危なっかしいですよ。先に理論があって後から実践がついてくれば安全なのですが。私はそういう人間ですから、ロータリーの中でも理論武装は不得意で、そういうところが多分に出ていると思います。その辺をご理解頂き、これを“まくら”としていよいよ本日の本題に入っていきます。まずロータリーの国際奉仕の正しい意義についての説明をしたいのですが、何しろ理論武装は苦手ですから、皆様方に間違った事を伝えてはいけないと思い、本日はカンニングペーパーを作ってきました。それを本日のレジュメとしてお配りしています。これをゆっくり読みますのでどうか皆様方も目で追って下されば嬉しいです。

<「ロータリー入門書」(前原勝樹著)国際奉仕の項抜粋・朗読>

ロータリーの国際奉仕には沢山の分野がありますが、一般的に有田RCに馴染みのあるのは長期・短期の交換留学生制度、米山奨学生制度、ロータリー財団奨学生制度などでしょうか。これらのうち現在当クラブが正式に継続中なのは、米山奨学生制度でラオスからのダーラーさんのみです。彼女は1ヶ月に1回当クラブの例会に出席し、そしてまた当クラブ主催の行事にも積極的に参加してくれて、また彼女のカウンセラーの橋爪誠治君も親身になって活動して下さり、国際親善・国際理解にとっても貢献していると思います。彼女は来年の春に日本での就職も決まり、スポン



サークラブとしては本当に喜ばしい出来事になりました。彼女が社会人になってもカウンセラーの橋爪誠治君には彼女との繋がりを大切にして頂きたいと思います。

それではこれからこの夏に短期受入れをしたモンゴルからの留学生メンドバヤル君のお話をします。今年の春前に次年度国際奉仕委員長を拝命することを当時の中元エレクトから伝えられ、久しぶりに留学生の受入れをしたいのだがと打診を受けました。地区が全然機能していないので、自分たちだけで実施するとすると、今まで以上のリスクを伴いますのでそれなりの覚悟で臨んだつもりです。早速私の知り合いからシカゴに住む学生とコンタクトを取ったのですが、諸事情により破談になりました。これが5月のGWの頃です。それで困りましたので中元エレクトに相談しますと、娘さんの知り合いのモンゴル人の弟さんが日本に来たがっているということで、その線で行きましょうということになりました。しかし、そこからお互いの連絡が上手く取れなかったりして、最終的にゴーサインが出たのは、7月の新年度に入ってからだったと思います。その様なことで色々な手続きが後手後手に回ってしまい、クラブに多大なご心配とご迷惑をお掛けしたことと思います。改めてお詫び申し上げます。今回の事業は会長、幹事さんにとりましては初めての留学生事業への取り組みでした。できればお互いロータリーが絡む交換留学生事業が理想だったのですが、今回は致し方ないかなと思いますし、とにかく無事に終えられて良かったと思います。

今回のホストファミリーは、私嶋田、橋爪正芳さん、橋爪誠治さん、中元会長、それぞれの家で2~3日ステイさせて頂きました。あと昼間、観光に連れて下さったのは、上野山幹事さん、川村さん、松村さん、脇村さん、井上さんにもお世話になりました。ホストファミリーを受けると奥様が大変なんです。奥様の協力なくしてはこの事業は成り立ちません。まだ、短期の場合はいいんです。預かるのが2~3日ですから、夕食はすべて外食でも間に合います。ところが長期は大変です。学生を1年間クラブで預かる間、4軒ぐらい会員宅でステイします。ですから1軒あたり3ヶ月預かります。朝食は主にパン、トースト、ハムエッグぐらいが良いのです。昼は学校で食べて来てくれますが、ところが夕食のメニューが大変なんです。短期みたいに毎日外食という訳に行きませんから、奥様の手料理に期待が掛かります。私は長期の学生を2回預かりましたが、これだけは言えるというのが2つあります。長期の学生を預かれば、夕食の料理がいつもより豪華になります。おかずがきつと2種類~3種類ぐらい増えています。家内も留学生に気を遣っているのでしょうね。夫としてはしめしめなんです。もう1つは、ロータリアンの夫婦は結婚してからそれなりに年数を経ている家庭が多いかと思えます。表現は悪いかもかもしれませんが、ある意味マンネリ化している家庭が多いのではないのでしょうか？ところが、特に長期の留学生を預かると、マンネリ化した家庭に新風が吹くんですね。つまり新しい家族(留学生制度では息子、娘として扱う)を迎えて、夫婦でより一層協力しないと上手く行きません。だから知らず知らずのうちに会話の量も増えて家庭が円満になります。そういうことで、今後夫婦がマンネリ化している家庭は、できるだけホストファミリーを積極的に受けて頂ければ有難いと思います。これが私の本日の結論です。有難うございました。

閉会・点鐘 (中元会長)